

◇全館共通項目は、中央図書館を含めた中心館が共通の意識を持って取り組んだ事業。
◆館の重点評価項目は、中央図書館が重点的に取り組んだ事業。

中心図書館名：中央図書館のみ

区分	施策・事業名	概要	実施結果	評価		
				自己評価	外部評価	
課題解決型図書館	◆全館共通評価項目	課題解決のためのレファレンスサービスの充実	・庁内掲示板で、市職員に向けてのレファレンスサービスの呼びかけや自治体情報誌の目次情報の提供を行った。 ・レファレンススキル向上のため、図書館職員を対象とした実践的なレファレンス研修を実施した。	・庁内レファレンスでは、109件の調査を行った。市職員向けに定期的に呼びかけを行った。 ・レファレンス研修は、集合研修ではなく、実践に即したレファレンス課題を各館の職員に提示し、課題を提出する研修を行った。提出した職員に対しては、今後のレファレンス対応のポイントや改善点を付けて返却し、業務に活かせるようにした。	3 大変評価する。 54%	・109件という数字が多いのか少ないのか、よく分からないが、積極的に庁内レファレンスが行われることが望ましい。 ・色々な対応が求められる今、細かい所まで配慮できる、大変ですがいい研修だと思いました。 ・内情を知る市職員向けの呼び掛けはいい試みだと思う。 ・「めぐるくん」の活用拡大に向けて、PRをもっと積極的に行っていただきたいと思います。 ・努力されている。レファレンスも様々な内容となっているかと考えられるが、これからもサービスの充実を高める実施に期待したい。 ・集合研修でなく実践に即した研修で良かったと思います。 ・レファレンス研修は、実践に即したものであり、それに対するチェックとアドバイスもあって有効だと思う。 ・こうした図書館のサービスは職員の能力が問われ厳しいが、それこそが専門性の発揮の場である。図書館が外部管理制にならないためにも頑張してほしい。 ・実践に即した研修は、重要であり、定期的に呼びかけを続けることは評価できる。
	◆館の重点評価項目	市民へのレファレンスサービスのPR	・市民向け図書館活用講座として開館10周年記念事業「図書館「超」活用術」を開催し、86名の参加があった。著作家・ライターとの奥野宣之さんから、仕事やぐらしの課題解決に役立つ図書館の使い方についてお話いただいた。	・講座を通して図書館の様々な活用法を伝えることができた。参加者の7割から満足したとの声をもらった。	3 大変評価する。 54%	・図書館活用の可能性を広げる良い取り組みであったと思う。 ・7割の声は、大きいと思いました。 ・図書館活用を知らない人々へ、継続的にサービスのPRをお願いしたい。 ・7割の支持が得られれば良かったと思います。10周年の時だけでなく、今後も開催してほしいと思います。 ・どのような具体的なレファレンスサービスが行われたのかを明らかにし、全館で対応を研修する必要がある。また、こうした制度があることを小中学生にも学校の図書館でも知らせ、利用する来館者を増やすことが大切だと思う。 ・参加者数及び、活用法などの視点も評価できる。
特色ある地域づくり図書館	◆全館共通評価項目	地域資料の体系的な収集と活用	・以下の特別コレクション室展示を行った。 「Woman・縁・にいがた」 H29. 7. 2～10. 31 「図書館のあゆみ展」 H29. 11. 2～H30. 3. 6 「會津八一の書簡展」 H30. 3. 8～6. 26 ・地域連携事業講演会として「蒲原神社の今昔」を開催した。	・「沼垂今昔の会」と東地区公民館との連携で実施している地域連携事業講演会として、地域に密着したテーマを選定し、定員を超える参加があった。	3 大変評価する。 77%	・市全体に感ずることだが、開港150年の好機を活かしていないように感じる。もっと市民に向けてアピールすべきではないか。市民が盛り上がりがない、楽しめないし外部からも人は来ない。 ・大変結構な取り組みだと思う。中央図書館、西川図書館だけでなく、豊栄図書館、白根図書館などが管轄する地域の取組があるとよい。 ・定員を超える参加者がいた事は、素晴らしいと思いました。地元の事を大切に思っている人が多い事とテーマの選定が本当によかったのだと思います。次回も楽しみです。 ・良くやられていると思います。 ・地域に密着したテーマで、様々な公民館と連携した事業を展開してほしい。 ・公民館との連携で非常に良い企画だと思います。地域に密着したテーマだと人は集まると思います。 ・地域の図書館としての存在意義を考えると地域に密着したテーマのコレクションは有意義だと思う。 ・各図書館ともよくやっていると思う。こうしたことを繰り返すことで、図書館利用者を少しずつ増やしていくしかないと思う。 地域連携は、市民とのつながりを深めるための、重要な手段である。
	◆館の重点評価項目	地域の声を反映した図書館運営	・9月の合同情報交換会では、サービス改善として10月から団体貸出制度を拡大する件と、ほんぼーと開館10周年記念事業について報告をした。分散会では、図書館をより多くの人に利用してもらうために、市民レベルでどういうことができるか、図書館としてどうしたらよいか、図書館と市民が協働して何ができるかについて意見交換を行った。	・合同情報交換会の分散会では、各区の協議会委員から、図書館を活用している事例や民間団体等と連携している事例が発表された。アンケートによると、区の枠を超えて様々な意見交換ができ、有意義だったとの声が多かった。	3 大変評価する。 38%	・合同情報交換会もある程度意味があるが、何年も出ていると、だいたい状況も分かってくる。平成30年度の糸賀氏の講演のように、新たなことを勉強できる外部講師の講演会もあるとよい。 ・情報交換会やアンケートの実施はいいと思いました。 ・図書館と市民が協働して利用したくなる図書館運営を形成していくための合同情報交換会を継続してもらいたい。 ・10月から団体貸出制度を拡大と聞いていますが具体的にどのような数字が出ているのかわからない。 ・図書館への要望と、それに対するの回答などを、図書館だよりなどでオープンにして話題にしていけることが大切だと思う。図書館だよりなども地域の回覧板などで報せることも有効。

区分	施策・事業名	概要	実施結果	評価		
				自己評価	外部評価	
子どもの読書活動型を推進する	◆全館共通評価項目	子どもの読書環境の整備 ・ブックスタート事業を継続するとともに、赤ちゃんタイムを全館に拡大し、うちどく(家読)を推進する。	・中央図書館では、中央区・東区の1歳誕生歯科健診5会場で84回ブックスタートを開催し、2,310名に絵本を手渡した。また、健診に参加できなかった対象者14組に、中央図書館でブックスタートを行った。 ・赤ちゃん連れ親子が気兼ねなく利用できる時間帯を設定する「赤ちゃんタイム」は、継続して実施した。 ・うちどく(家読)の取組として「うちどくブックリスト中学生向け」を作成し、市内中学校等に送付した。	・ブックスタートは、ブックスタート実行委員会や関係者会議などを開催し、ボランティアや関係課・機関と連携して円滑に実施した。 ・「赤ちゃんタイム」にあわせて来館する利用者の姿が見られ、「赤ちゃんタイム」が周知された。ブックスタートや乳幼児向けの事業等の場での広報を継続して行っていく。 ・「うちどくブックリスト中学生向け」を作成し、中学生世代の読書推進に努めた。	3 大変評価する。 85%	・協議会で質問が出ていたように、中学生向けのブックリストなど、中学生向けの取組が評価できるが、さらに成果が高まるようにご努力いただきたい。 ・「うちどくブックリスト中学生向け」について例えば「君達の人生を変えるリスト」等のインパクト有るコピーとし、現代の中学生が手にしたくなる様な印刷物にしては？ ・読み聞かせに来て下さるお母さんから「ブックスタートで絵本をいただきました」と話をする方がいます。小さい頃から、お話や絵本の世界に触れ、情操を豊かにするきっかけになっていると思います。費用の問題もあると思いますが、この素敵な事業は是非続けていただきたいです。うちどくの取組もとてもよいと評価させていただきます。 ・読書習慣は就学前の体験が大きいので、早めの取り組みには意義がある。特に昨今はスマホやビデオ等で子どもの時間つぶしをする親も多いようなので、読書の楽しさを親子で味わってもらおう呼びかけることが大切である。 ・赤ちゃんタイム、市民の関心が高いと思う。他の公共施設にも動きが広がっており、拡充すべき分野だろう。 ・ブックスタートの充実やうちどくの推進をすすめていることを評価する。うちどくは、送付だけでなく、今後学校現場での活用状況を調査して、効果などを発信してほしい。 ・ブックスタートが順調で大変良いと思います。廃止しないで永久に行ってほしいと思います。 ・この事業そのものは有効に機能していると思う。ただ、この主旨を生かし、子どもの読書活動の隆盛に結び付ける必要がある。また、母親の意識の高揚につなげることも大切だと思う。特に家読のプリントをしっかりと家庭に配布し、生かす必要がある。 ・ブックスタート事業は「読み聞かせ」をして、絵本を手渡すという、子育てをスタートした人にとっては、とてもありがたい事業であり、絵本への入り口として、今後の親子にとってよいきっかけとなる大変評価できる事業である。中学生のブックリストも、本を選ぶ時のよいきっかけになる、評価できる事業である。
	◆館の重点評価項目	学校、保育園、幼稚園、公民館などとの連携と支援 ・市内4つの学校図書館支援センターが、学校・関係機関と連携し、学校図書館活用を推進する。 ・「地域と学校パートナーシップ研修会」に参加し、関係機関との情報共有を図る。	・4つの学校図書館支援センター全体の取組 ①学校図書館訪問(305回)、業務相談(1,062件)、新任学校司書研修(6回)、延べ92名参加)、学校司書実務研修(6回、延べ329名参加)、学校ボランティア支援(10校、13回)を実施した。 ②総合教育センター研修「教員と司書との連携充実」に参画し、学校支援課「学校図書館活用推進校事業」に協力した。 ③東・西特別支援学校への学校司書配置を受け、学校や関係課による「特別支援学校の学校図書館整備連絡会」が開催された。 ・地域と学校パートナーシップ研修に全館で延べ20名が参加した。	・学校や関係機関と連携・協力して、学校図書館の「読書センター」「学習センター」「情報センター」機能を充実させるとともに、学校図書館の活用推進のために学校全体での取組を進めることができた。 ・東・西特別支援学校に資料購入費の追加担当があり、図書館主任や学校司書と密に連絡をとり、ニーズに応じた支援を行うことで図書館整備を進めさせた。	3 大変評価する。 77%	「教員と司書との連携充実」研修が少しずつ成果を上げてきていると思う。学校図書館活用推進事業も、他の自治体に参考にされている素晴らしい取組である。 ・子ども達の読書活動を推進するための、様々な活動が行われている事に驚きました。これらの活動から子ども達が図書館や本を身近に感じて、活用してほしいと思いました。 ・学校職員の中にも、学校図書館の3つの機能やそれを有効に働かせるための公立図書館及び支援センターとの連携の仕方が浸透してきた。今後より一層それを進めていくため、取り組みを継続していただきたい。 ・良くやられていると思います。 ・学校図書館支援センターの存在が明確になってきた。実施結果の努力は自己評価の結果につながったことがわかる。学校図書館運営の向上には必要な項目なので、期待したい。 ・東西特別支援学校への司書配置は大変有意義な事でよかったと思います。学校ボランティア支援を10校でなくもう少し頑張ってください。 ・学校図書館支援センターの職員の方々の各学校への支援は、学校図書館を活性化する上で大いに役立っている。新潟市の特色である司書の全校配置を生かすためにも、司書の研修及び支援の充実を望む。 ・支援センターや学校図書館司書が努力して子どもの読書活動推進に頑張ってくださいと評価できる。しかし、本当に効果を出すためには、校長の理解が重要である。そこをポイントに市教委と協力して対策を立てていくことが大切である。 ・学校図書室は、子どもたちが本に触れる一番身近な場所である。司書の先生の研修などや蔵書を充実させた図書室運営を期待する。
市民参画と協働を推進する	◆全館共通評価項目	ボランティアや教育機関・民間団体等との協働 ・ボランティア・教育機関や民間団体等と一緒に事業を行い、市民との協働を推進する。	・市民団体(新潟ビブリオバトル部)との共催で「ほんぼーとビブリオバトル」を開催した(参加者 31名) ・教育機関(総合教育センター)と2件の共催事業を行った。 「標本製作講習会」(参加者 親子53名) 「コズミックカレッジ」(参加者 親子52名) ・読み聞かせ等ボランティアグループ情報交換会を行った。(参加者 43名)	・市民団体や教育機関及びボランティア団体との協働で、35の事業を行った。	3 大変評価する。 69%	・図書館と総合教育センターの共催事業は、センターのスタッフにも図書館の利用を促すよい取組で、今後の連携が期待できると思う。 ・協働作業を35事業はすごいと思いました。ビブリオバトルは、市報などで見かけて、おもしろそうだ、と思いますが、一度も参加した事ありません。行ってみたい！と思えるような何かがあるとより盛り上がるのではと思いました。読み聞かせの情報交換会は、有意義でよかったです。 ・魅力的な事業を企画実施された。図書館に市民が足を運ぶ事業展開とボランティア団体とのより良い協働となることに期待したい。 ・ビブリオバトル、読書会等色々なイベントを今後も引続き行ってほしい。 ・ボランティアの方々の意見をよく聞き、教育関係機関(市教委と学校)などとしっかりと本音で協力して対応する必要がある。そのための方策の一つとして、協議会などに参加を願ひ、よりよい工夫を考えることが大切である。
	◆館の重点評価項目	中央図書館開館10周年記念事業の実施 ・開館10周年を記念して実施する事業で、ボランティアや民間団体と連携したイベントを行うことにより、市民との協働を推進する。	・開館10周年記念事業「黒井健原画展inほんぼーと」では、黒井健さんによるギャラリーガイドボランティア養成を行い、ボランティアが会場での作品見守りや作品説明を行った。(入場者1,606名) ・開館10周年記念事業のうち、ボランティアとの共催事業として以下の3つの事業を行った。 「こどもがつくるかみしばい」(参加者 12名) 「ほんぼーと子どもフェスティバル2017」(参加者 59名) 「本とあそぼう!～名探偵はだれ?～」(参加者 12名)	・「黒井健原画展inほんぼーと」におけるギャラリーガイドボランティアや、アニメーションを取り入れた「本とあそぼう!～名探偵はだれ?」など、開館10周年記念事業及び関連事業の実施にあたり、多くのボランティア及びボランティアグループに協力を得て行った。	3 大変評価する。 62%	・それぞれ面白い取組であった。来年度はぜひ、新潟開港150周年に関する記念事業をやってほしい。 ・講演会、原画展に参加。ボランティアガイド養成は、より市民へのアピールという点で効果的だった。職員と違い、話かけやすく、展示室の雰囲気も和らから良かった。 ・普段、なかなか奥まで入る事がない図書館の内側に市民ボランティアが入れるよい機会だったと思います。黒井先生の直接講義は、とても素敵なプレゼントになりました。準備など、お疲れ様でした。 ・せつかくの記念事業などの、3つの共催事業にもう少し人が集まるとよかったなと思った。 ・ボランティアの皆さんに感謝したい。 ・黒井健さんの原画展は素晴らしい。何度も足を運びたい。他の人からも図書館が身近になったという話を聞いた。 ・開館10周年記念が成功に終わり大変良かった。 ・黒井健原画展をはじめ開館10周年記念事業の実施、お疲れ様でした。一市民として、とても素敵な企画であったと思う。 ・こういう取り組みも大切であり、有効だったと思う。なにしろ、図書館が敷居を低くして、楽しい憩いの場になる必要がある。 ・市民ボランティアとの協働は評価すべき点である。